

決算説明会

2021年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2020年11月6日

1. 業績の説明

2. 事業概況と経営戦略

業績の説明

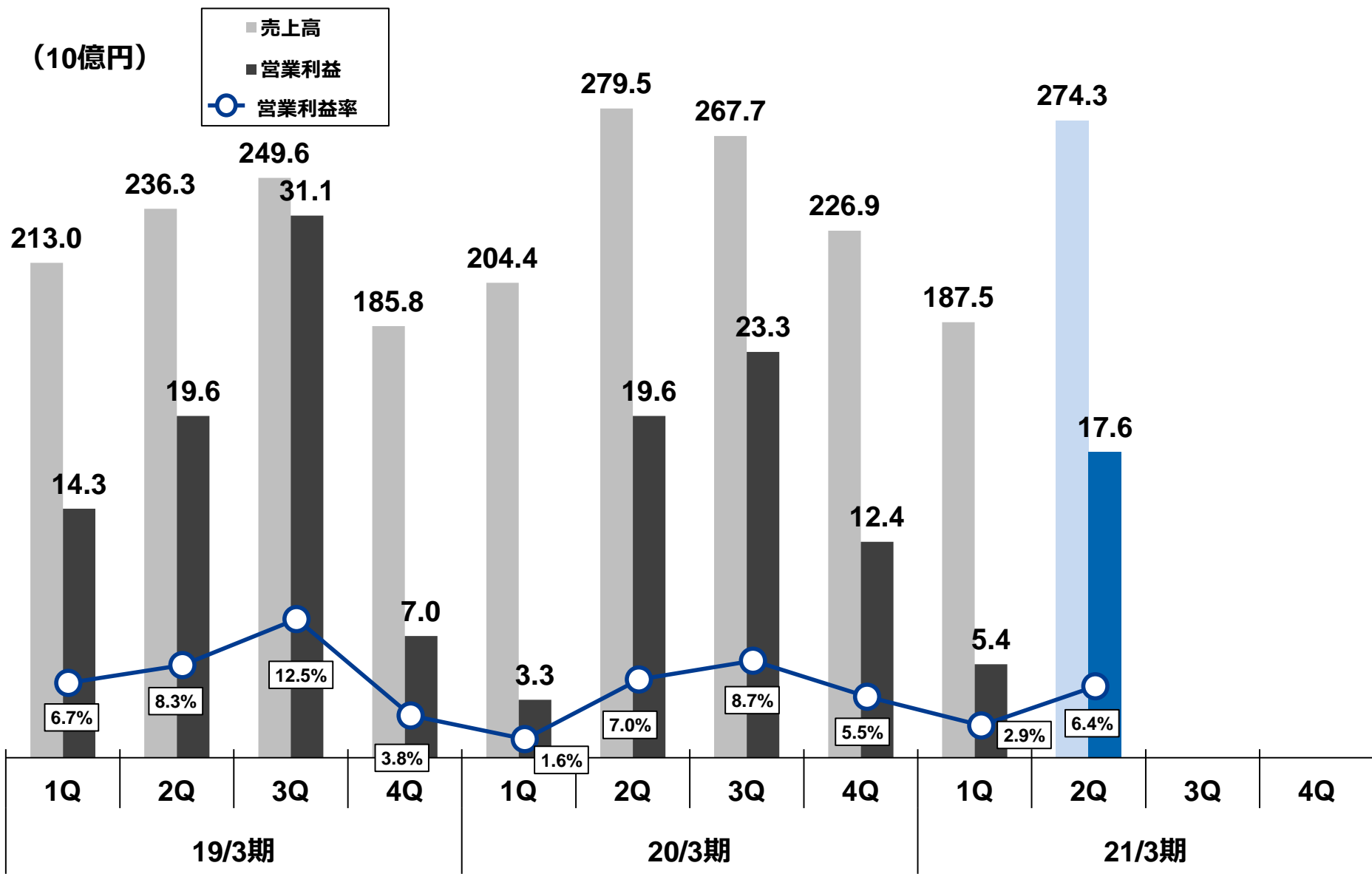
取締役 専務執行役員 吉田 勝彦

上半期営業利益は前年並を確保

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	279,473	187,463	274,267	-1.9%	+46.3%
営業利益	19,623	5,364	17,557	-10.5%	3.3倍
税引前利益	19,632	5,274	16,975	-13.5%	3.2倍
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	14,142	3,573	13,239	-6.4%	3.7倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	34.07	8.75	32.42	-4.9%	3.7倍

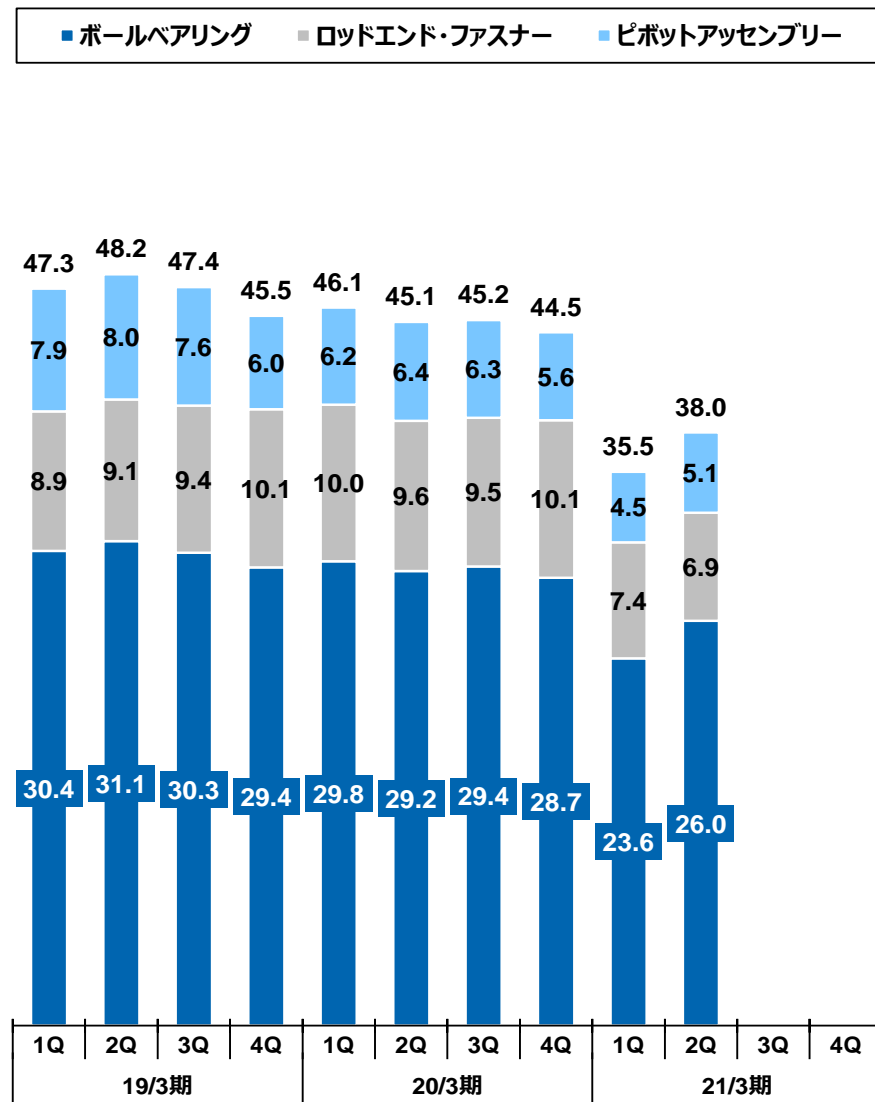
為替レート	2020年3月期 2Q	2021年3月期 1Q	2021年3月期 2Q
US\$	107.63円	107.74円	105.90円
ユーロ	120.44円	118.23円	123.56円
タイバーツ	3.50円	3.34円	3.41円
人民元	15.44円	15.12円	15.16円

売上高、営業利益、営業利益率

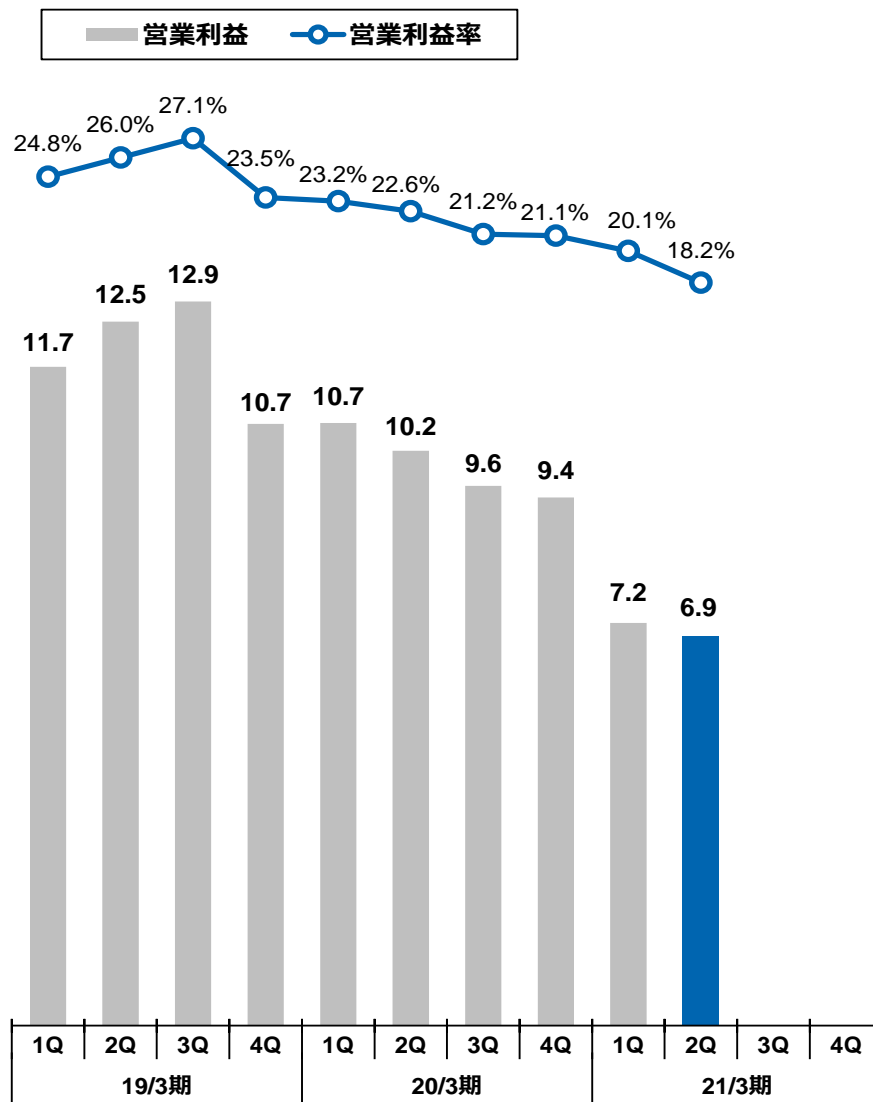


機械加工品事業セグメント

売上高 (10億円)

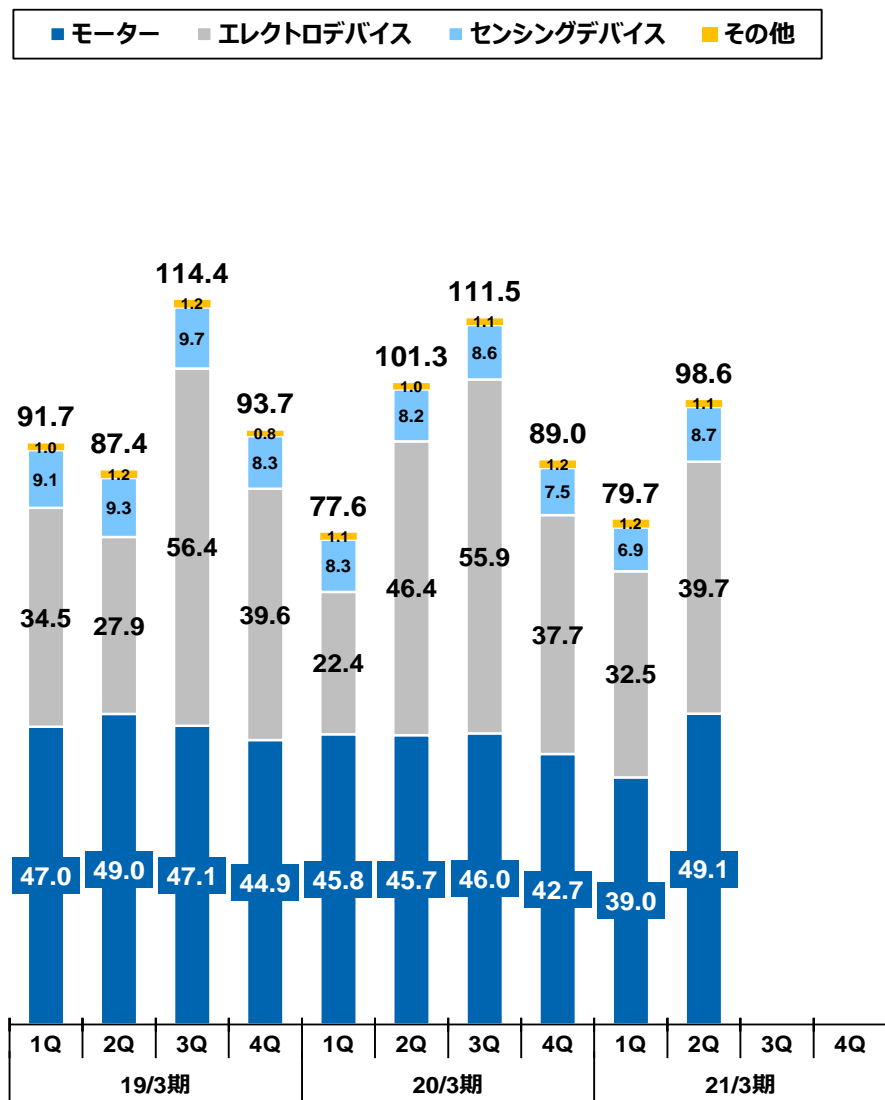


営業利益 (10億円)

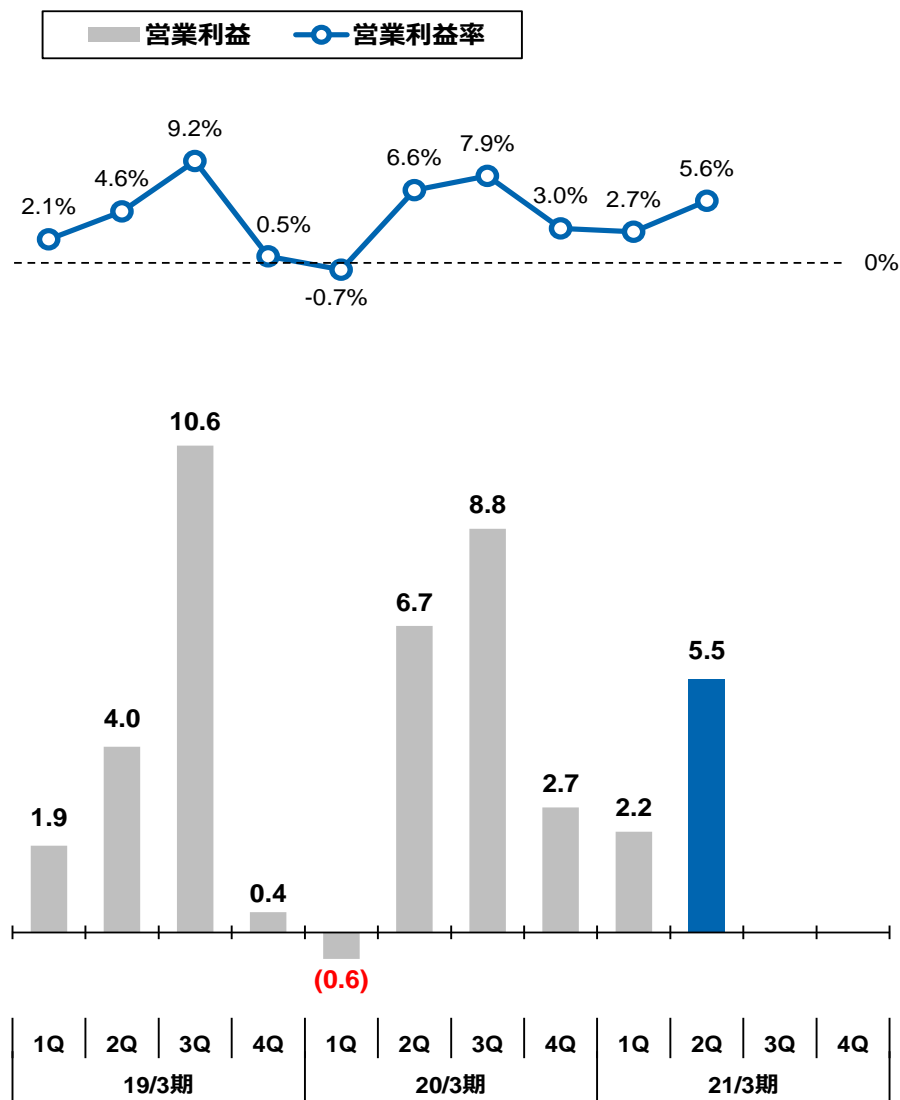


電子機器事業セグメント

売上高 (10億円)

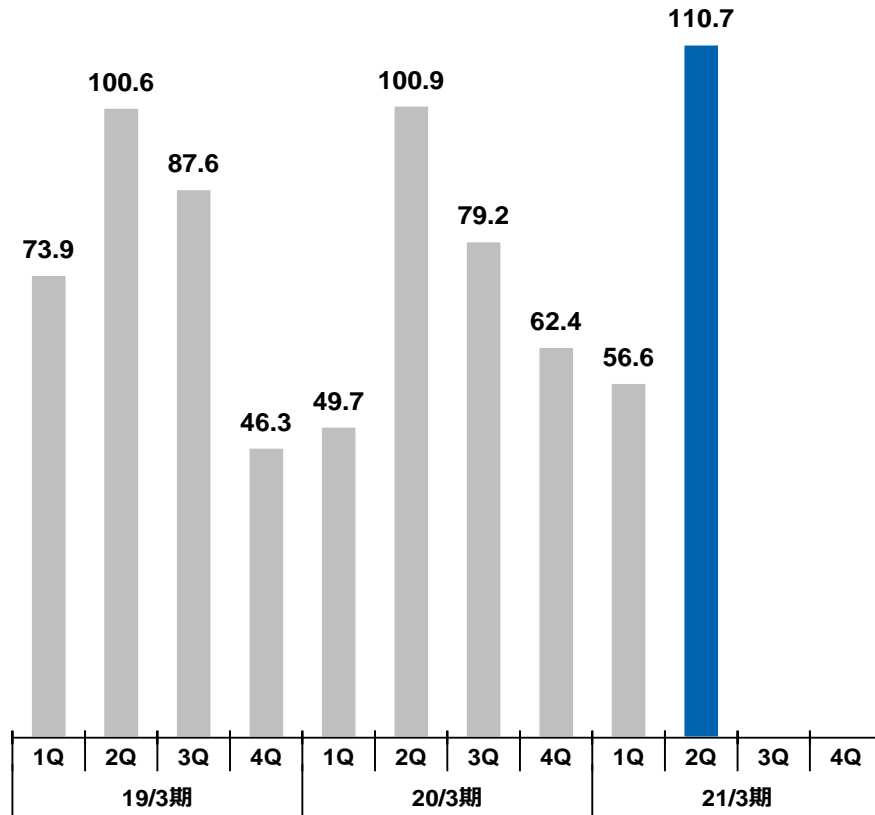


営業利益 (10億円)

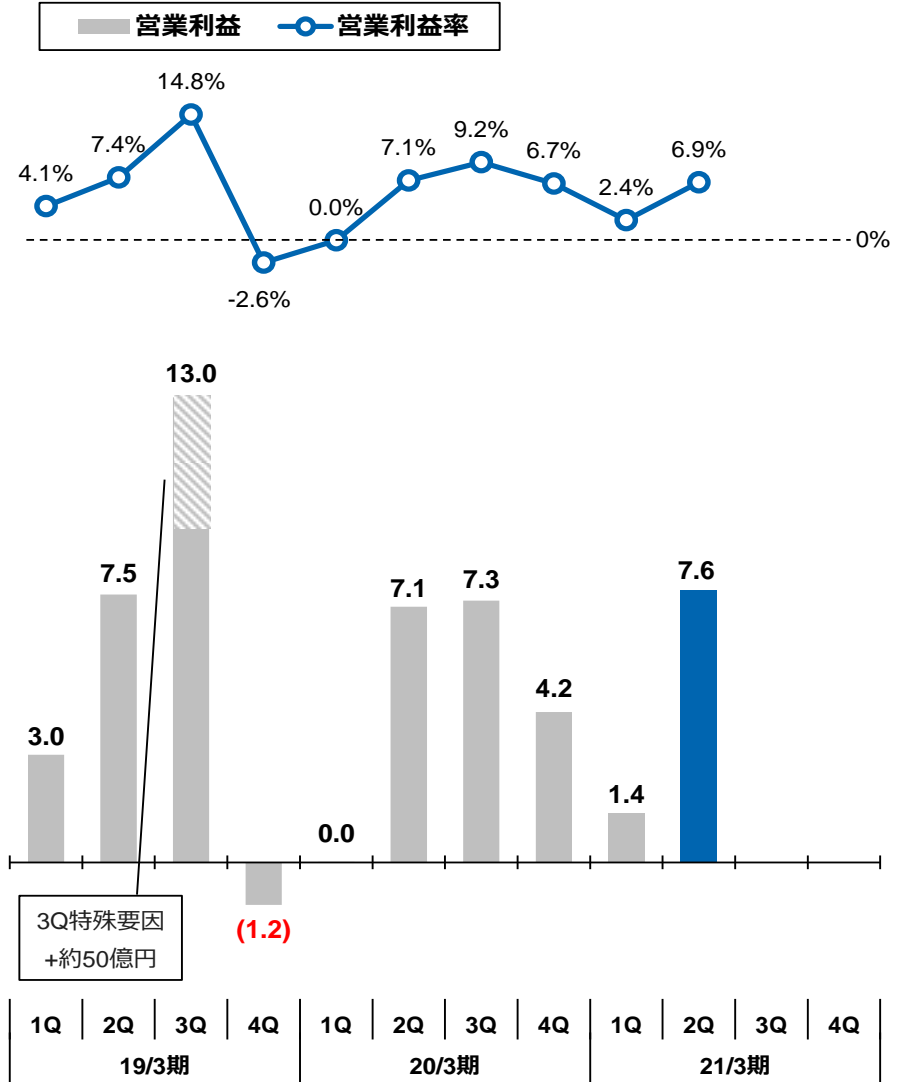


ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



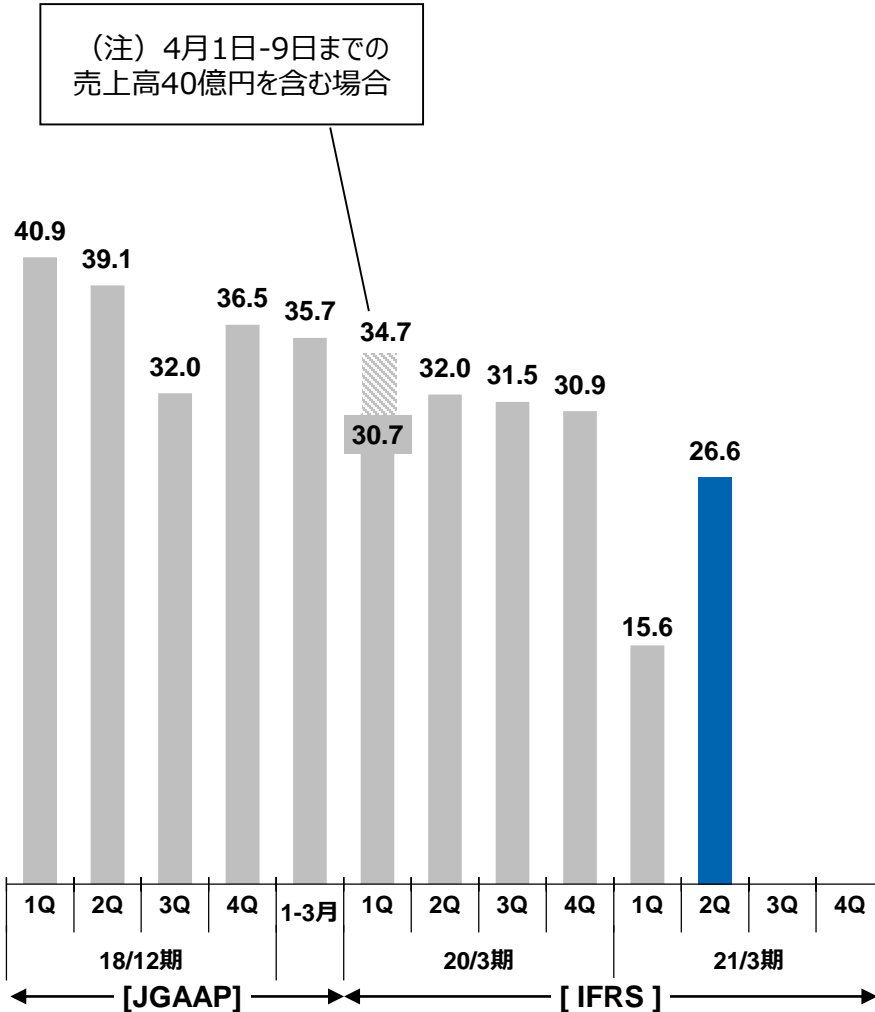
営業利益 (10億円)



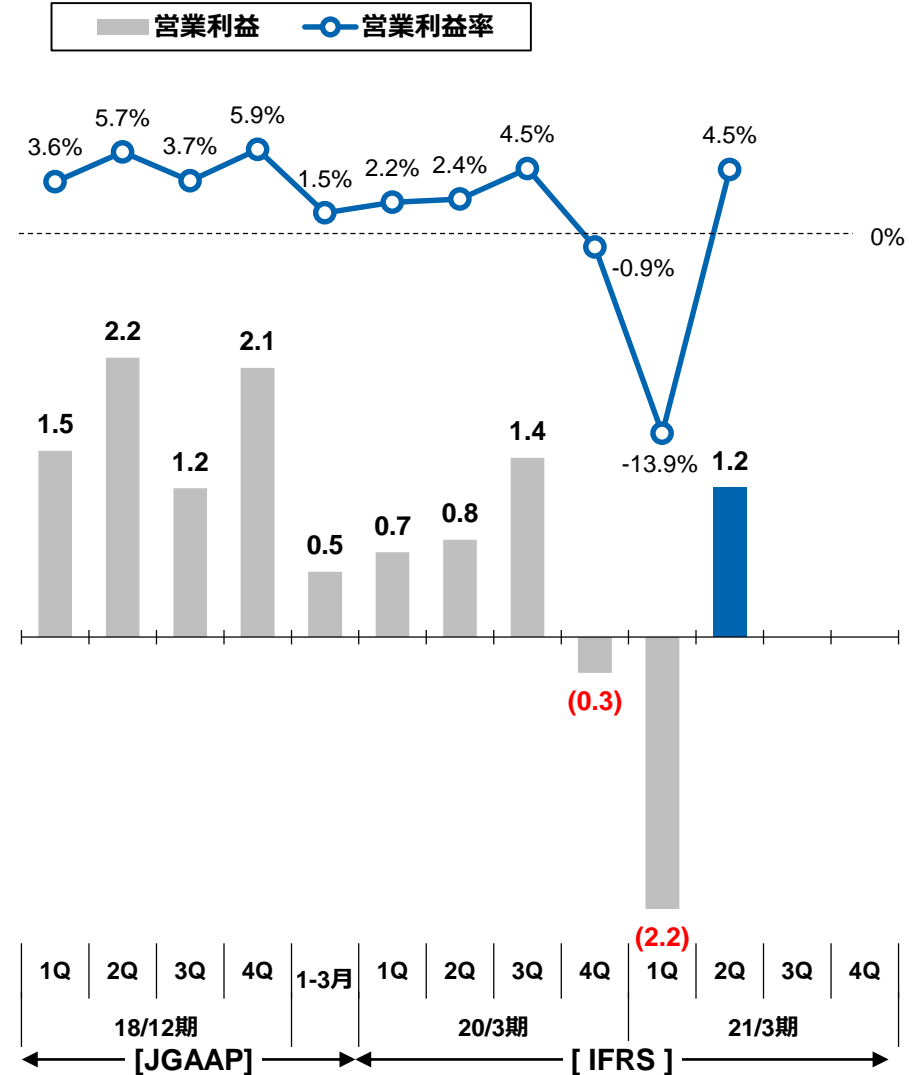
ユーシン事業セグメント

19年1-3月以前は経営統合前の参考値でJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

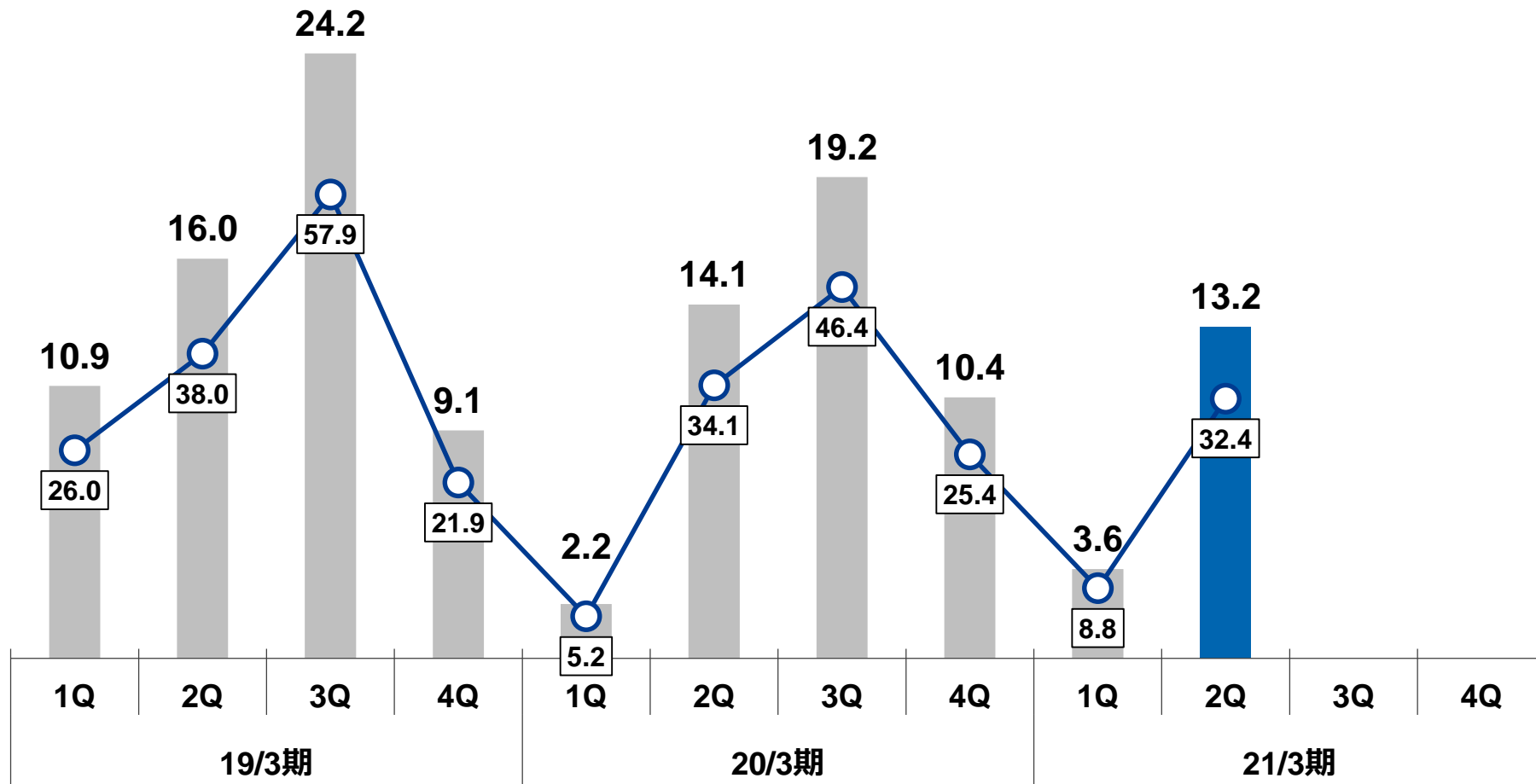


*PPAにより、20/3期は修正

親会社の所有者に帰属する四半期利益

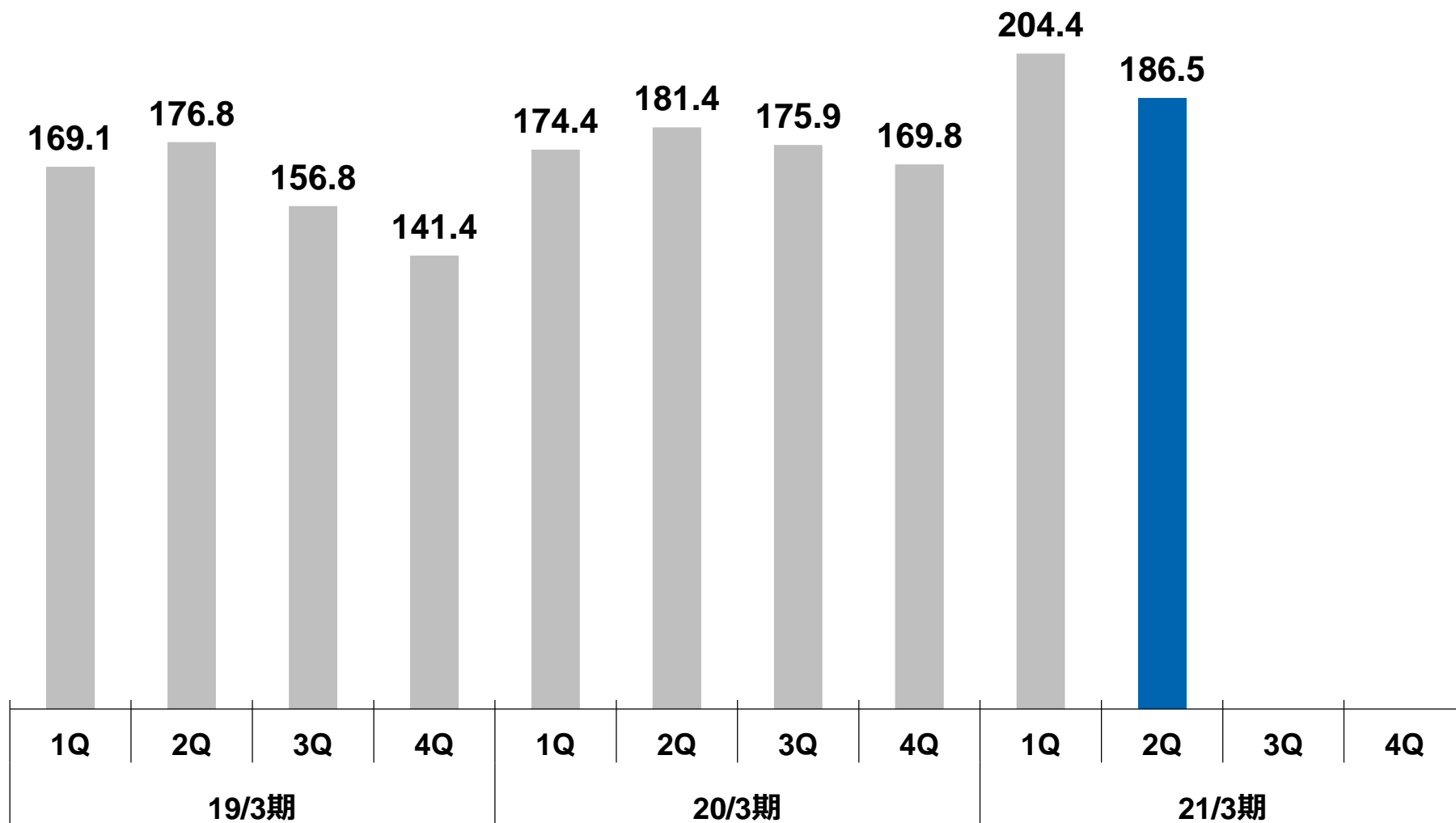
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



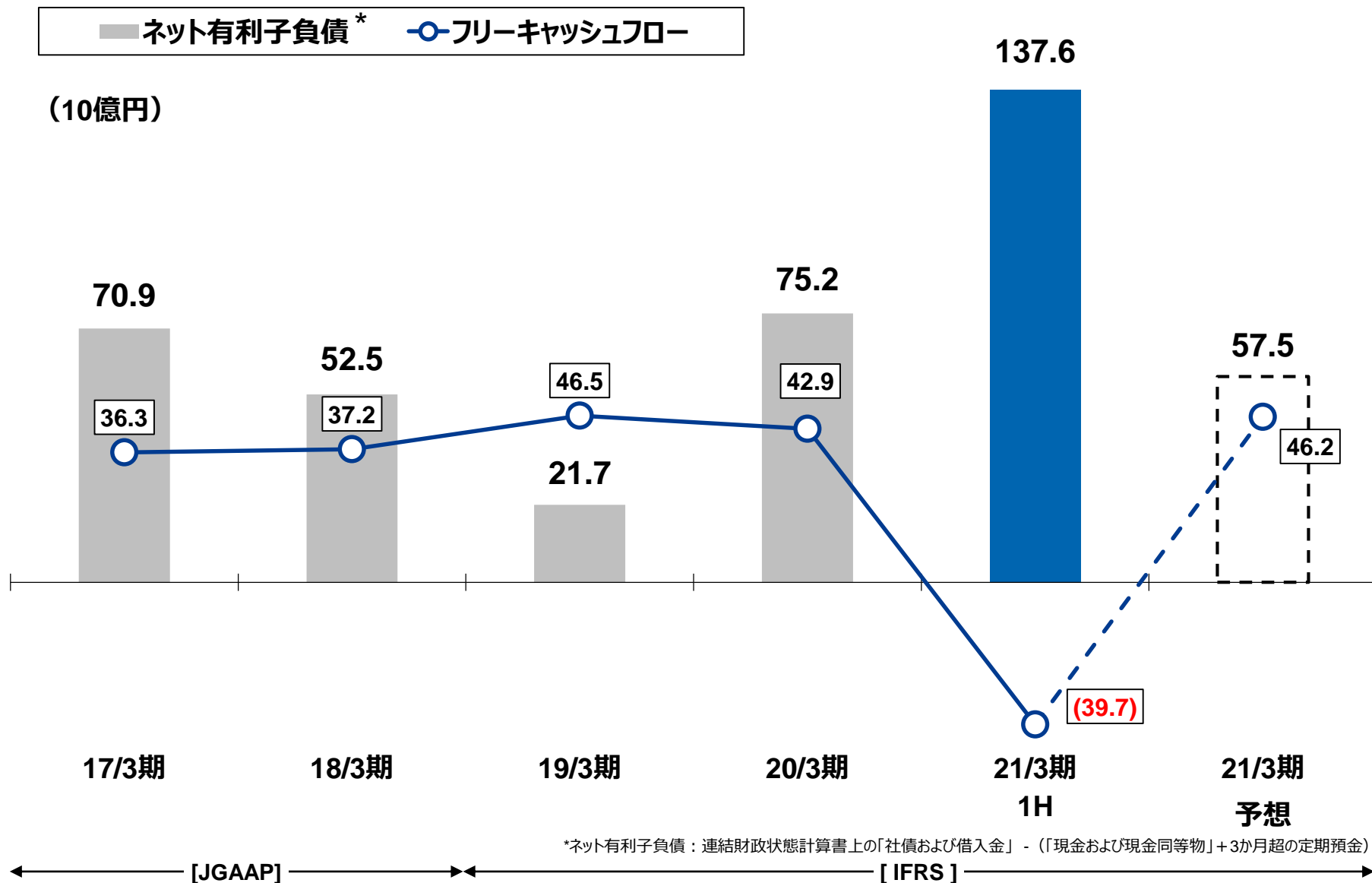
棚卸資産

(10億円)



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP



営業利益は500億とします

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	978,445	461,730	478,270	940,000	-3.9%
営業利益	58,647	22,921	27,079	50,000	-14.7%
税引前利益	58,089	22,249	26,751	49,000	-15.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	45,975	16,812	22,188	39,000	-15.2%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	111.11	41.16	54.33	95.49	-14.1%

為替レート	2020年3月期 通期	2021年3月期 下半期想定
US\$	109.12円	105.00円
ユーロ	121.27円	125.00円
タイバーツ	3.52円	3.35円
人民元	15.68円	15.50円

セグメント別業績予想

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	978,445	461,730	478,270	940,000	-3.9%
機械加工品	180,885	73,548	78,452	152,000	-16.0%
電子機器	379,422	178,274	168,726	347,000	-8.5%
ミツミ事業	292,243	167,346	174,654	342,000	+17.0%
ユーシン事業	125,145	42,153	55,847	98,000	-21.7%
その他	750	409	591	1,000	+33.3%
営業利益	58,647	22,921	27,079	50,000	-14.7%
機械加工品	39,874	14,064	15,936	30,000	-24.8%
電子機器	17,552	7,681	7,319	15,000	-14.5%
ミツミ事業	18,656	8,984	12,016	21,000	+12.6%
ユーシン事業	2,598	△974	1,974	1,000	-61.5%
その他	△1,502	△831	△1,169	△2,000	+33.2%
調整額	△18,531	△6,003	△8,997	△15,000	-19.1%

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2020年11月6日

代表取締役 会長兼社長執行役員
(CEO & COO)

貝沼 由久



コストダウンを徹底し来期の収益大幅改善を図る

下半期の ポイント

- 全ての事業で徹底したコストダウン・省人化・生産性／稼働率向上をおこなう。
- 機械加工品：下半期の前半はベアリングの生産を戦略的に調整し、一旦在庫を削減。4Qから増産し来期の期初からのスタートダッシュに向けて準備。
- 電子機器：8本槍戦略の中核へ。
- ミツミ：新製品の投入等でプロダクトミックスの強化を図る。
- ユーシン：体質改善による損益分岐点の引き下げを継続。

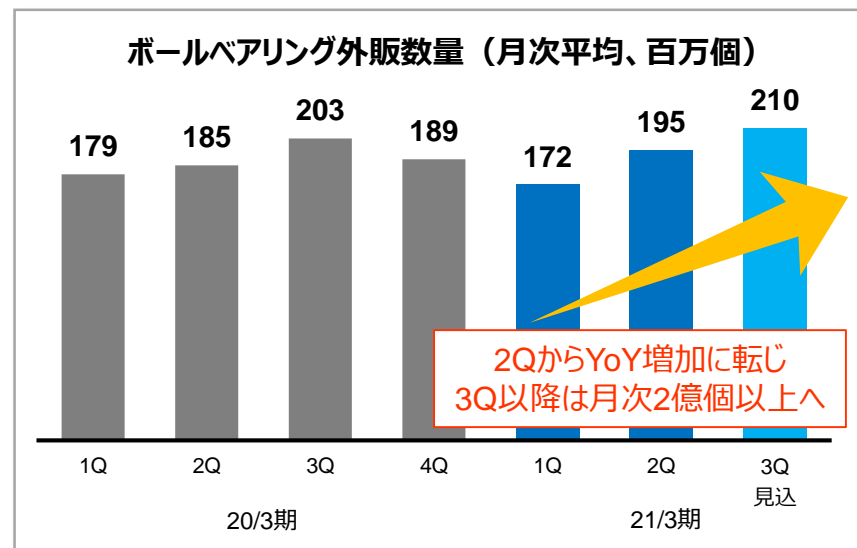
(百万円)	2020年3月期 通期	2021年3月期計画			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	978,445	461,730	478,270	940,000	-3.9%
営業利益	58,647	22,921	27,079	50,000	-14.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	45,975	16,812	22,188	39,000	-15.2%
基本的1株当たり 当期利益(円)	111.11	41.16	54.33	95.49	-14.1%

主なマイナス要因	上限シナリオでの想定	現状
① 航空機市場	低迷から徐々に回復	▶ 今期低迷は続く
② 米中貿易問題（スマホ）	当時の現状を維持	▶ 5G制裁の発表

今期は戦略的に在庫適正化を優先し来期に備える

1 ボールベアリング事業

- 1 ▶ 下半期の外販数量は**すべての月で2億個以上**に回復の見込み。
- 2 ▶ 今期は増産より**在庫適正化で来期に備える**。
→ 来期は期初からフルスイングでの生産。
- 3 ▶ 自動車向けは想定を上回るスピードで回復。
EV化／高機能化が強力にけん引。



2 航空機関連事業

- 1 ▶ 精密加工技術等のテクノロジーを活用し
メディカル分野へ拡販。
- 2 ▶ プッシュからプル型生産に体質改善。
コロナ後の競争力大幅向上を目指す。
- 3 ▶ リソースの有効活用で将来の航空機需要の
回復に備える。

SPIRA™
OPEN MATRIX ALIF



SPIRA™-C
OPEN MATRIX CERVICAL INTERBODY



インプラント向け人工臓器

モーターを中心とした事業全体の 安定的な成長の土台が固まる

1 モーター事業

- 1 ▶ 徹底したコストダウンとプロダクトミックス改善の成果が顕在化。
- 2 ▶ 1Qは全般的に減速も2Q以降は**車載向けを中心に急回復**。EV向けレゾルバ・ファンは拡販体制。
- 3 ▶ ゲーム向けも堅調な立ち上がり。
- 4 ▶ 多数の新製品を投入予定。

2 LEDバックライト事業

- 1 ▶ 上半期は期初計画を上回って着地。
- 2 ▶ 当面安定的な事業を予想。

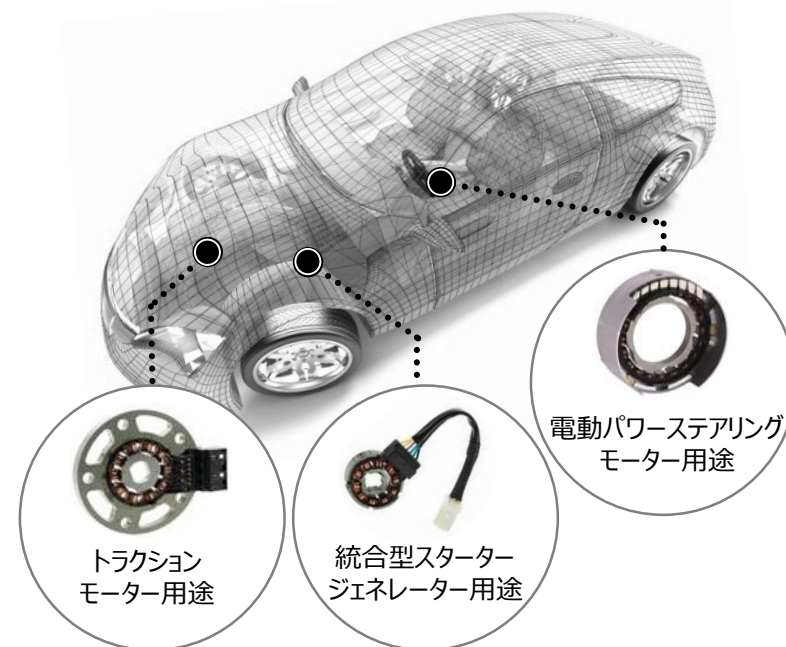
3 センシングデバイス事業

- ▶ 1Qで底を打ち安定的に収益に寄与。

EV用モーターの事例

レゾルバ（回転角センサ）

走行モーターの回転を正確に制御するために欠かせない角度センサーで、電気自動車(EV)やハイブリッド自動車(HV)の電力消費率や走行性能に大きな影響を与える基幹部品。



アナログ半導体は確かな収益源として確立 8本槍の「相合」によるシナジー創出を加速する

1 アナログ半導体事業

- 1 ▶ 巣ごもり消費、自動車の回復、全社横断でシナジー創出へ。
- 2 ▶ 来期は営業利益100億円が射程圏に。

2 光デバイス事業

- 1 ▶ 主要顧客向けは期初計画を上回って推移。
新モデル向けの立ち上げも順調。
- 2 ▶ Huaweiの急減速は顧客層拡大とリソースの最適化でカバーを図る。
- 3 ▶ イノベーションで業界をリードする。

3 8本槍の強化

- 1 ▶ コネクタ、電源などの自動化の推進と徹底したコストダウン。
- 2 ▶ 新製品の投入（ニッチで「相合」的高付加価値）

高付加価値コネクタ



コスト削減策と「相合」による次世代向け製品の 拡販準備を並行する

1 自動車事業

1 ▶ 損益分岐点の引き下げ施策を推進。

固定費

- 設備投資の抑制

限界利益率

- スクラップの大幅低減
- 共通購買
- 価格調整の施策

2 ▶ 体質改善、構造転換を進める。

- ① フラッシュハンドル
- ② CSD
- ③ E-Latch (E-Access)

低価格品をやめて
「相合」できる製品へ

2 住宅機器事業

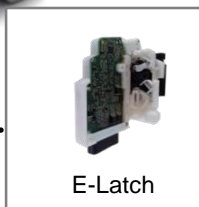
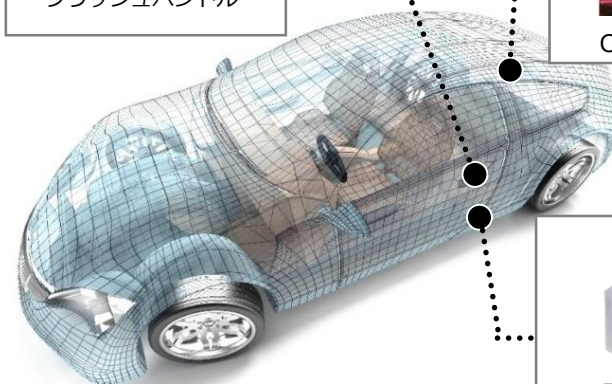
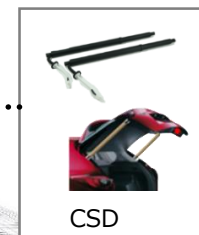
▶ スマートロックの市場投入。

次の成長の柱となる注力製品

フラッシュハンドル：リモコンキーを持った人が車に近づくとドア表面からハンドルが自動的に出てくる。デザイン性や空力性能の向上に貢献。

E-Latch：小型軽量化を図った電氣的解除のバックドアのラッチ（ドアを施錠する装置）。

CSD：車両のバックドアの両端に搭載し、バックドアの電動開閉をおこなう。



1 来期のためのコストダウン

2 ユーシンの体質改善 構造転換を進める

3 半導体・電源・コネクタの収益拡大

4 EVなどの自動車関連の充実

5 来期から始まる新製品による売上拡大

6 外部人材の積極採用

自動車

コネクティビティ

インフォテインメント

安全

環境

快適性



自動車

FA ロボティクス インフラ



データセンタ



IoT機器



ロボット



ドローン



スマート
フォン



高級家電



ウェアラブル
機器



住宅機器

コンシューマ ほか

大型案件

'22量産開始
予定



トラクションモーター用
レゾルバ

大型案件

'21量産開始
予定



二次電池冷却FAN

世界最小

'21量産開始
予定



小型6軸力覚センサー

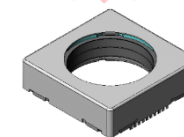
サーバー向け FAN+制御IC

相合



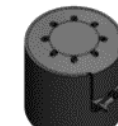
サーバー用FANモーター

ハイパワー、高精度、低消費電流



超音波モーター
OISアクチュエータ

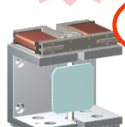
アイマツサージャー 向け



レゾナントデバイス

LiDAR ADASレベル3以上

相合



レーザー扫描仪向け
アクチュエータ

EPB向け



DCモーター

ABLIC 引き合い急増



バッテリーレス漏水センサ

大型案件 '21量産開始 予定

相合



Wavy Nozzle

ファンジャケット向け モーター、電池IC

相合



ファンジャケット

超高速 省スペース



防じん・防水USB
Type-Cコネクタ

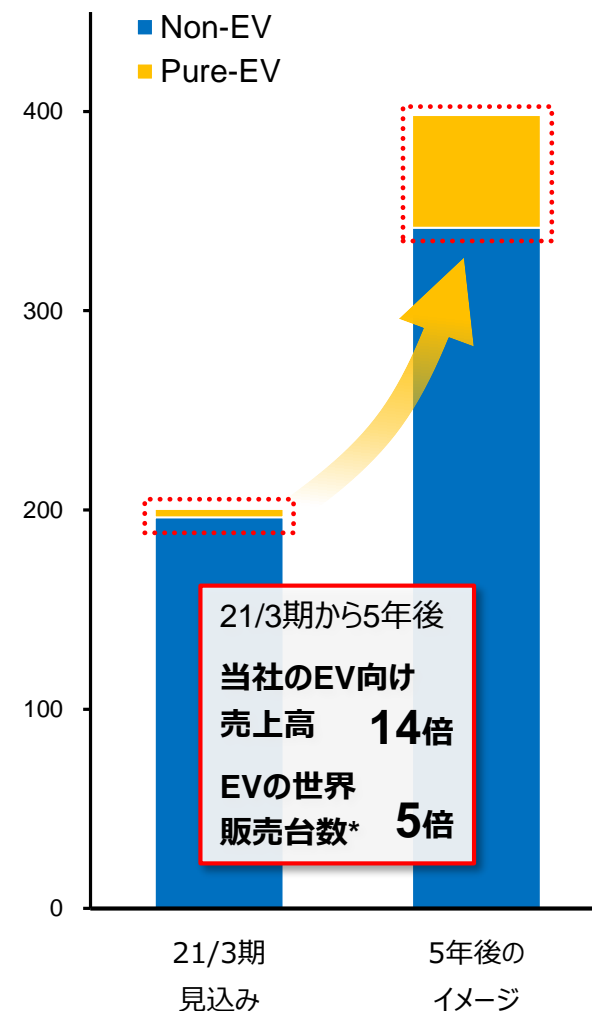
EV化が自動車事業を大きくドライブ

- ▶ 自動車向け売上高は**5年後に2倍**
- ▶ うち、**EV向けは14倍**（EV市場は5倍） *図表1
EV以外も高機能化で大きく成長
- ▶ **8本槍の「相合」によるシナジー**を創出 *図表2

図表2. 8本槍の「相合」による自動車向けシナジー

今後の自動車に求められる基本性能	ベアリング	モーター	アクセス製品	アナログ半導体	センサー	コネクタ/スイッチ	無線/通信ソフトウェア
EV固有機能	●	●		●		●	
コネクティビティ & インフォテインメント		●	●	●		●	●
安全	●	●	●	●	●	●	●
環境	●	●		●	●		
快適性	●	●	●	●			●

図表1. 自動車向け売上高（10億円）



EV固有機能

- ・ レゾルバ
- ・ 二次電池冷却ファン
- ・ ウォーターポンプモーター
- ・ エキスパンションバルブ
- ・ 水冷却バルブ
- ・ クーラントバルブ
- ・ モーター駆動インバータ
- ・ DC/DCコンバータ
- ・ EV充電器

構成比 **25%**
↑ **14倍**



コネクティビティ& インフォテインメント

- ・ 車載音響エキサイター
- ・ シート振動エキサイター
- ・ CID/HVACタッチパネル触覚
- ・ スマートコックピット
- ・ 冷却ファン
- ・ 車載用高速伝送コネクタ (ヘッドユニット、
モニタ、テレマティクス制御、カメラ)
- ・ 複合アンテナ
- ・ EV車充電量表示ECU

構成比 **5%**
↑ **20倍**



安全

- ・ LiDAR
- ・ ヘッドライトアクチュエーター
- ・ ドア/チャージポートロック
- ・ ステアリング振動、ステアリングロック
- ・ 冷却ファン
- ・ SBW (ステアバイワイヤ)
- ・ EPB (電動パーキングブレーキ)
- ・ 超音波センサー
- ・ E-Latch

構成比 **35%**
↑ **50倍**



環境・快適

- ・ アクティブグリルアクチュエーター
- ・ シートベンチレーション
- ・ HVAC用モーター
- ・ パワーテールゲート
- ・ ヘッドレスト、ランバーサポート
- ・ パワースライドドア、ドアクローザー
- ・ フラッシュハンドル
- ・ CSD
- ・ E-Access

構成比 **35%**
↑ **7倍**



「相合」活動を通してSDGsへ積極的に貢献



カンボジアにおいて15,000灯の道路灯を納入

- ・無線コントロールによるLED道路灯の設置
 - ▶ プノンペン、シエムリアップなど
- ・調光集中管理と集中モニタリングサービス
- ・全世界で50,000灯へ

水銀道路灯比で約90%電力削減

(累計)

京都大学との無線給電の社会実証試験

- ・インフラモニタリングシステムの動作を包括的に検証
- ・小型、高感度で超低消費電力タイプのひずみゲージ：MINEGE® (ミネージュ) をセンサーに採用

社会インフラ構造物の

効率的かつ経済的な維持管理

(2020/10/9 プレスリリース)

日本気象協会と予測精度向上の実証実験

- ・スマートライティングのセンサー情報をリアルタイム分析
- ・環境センサーをIoT小型気象センサーとして利活用

気象情報、日射量・太陽光発電出力の 予測精度向上、エネルギー最適化

(2020/10/29 プレスリリース)

大阪にてセンサー付きLED道路灯の実証実験

- ・都市生活にかかわる機能を一括してモニタリング
 - ▶ 各種センサー (環境センサ、パーキングセンサ等)
 - ▶ 監視カメラ など
- ・道路近辺の環境状況、交通量、路上の冠水等を把握

都市生活の利便性・安全性を向上 してエネルギーの最適化を図る

(2020/8/31 プレスリリース)

タイ工場棟の屋上スペースにタイ最大級の太陽光パネルを設置し 環境負荷低減／CO₂削減およびコストダウンを図る

バンパイン工場



ロップリエ工場



総設置面積

30,000m²

発電能力

5メガワット

SDGsの達成に貢献



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を

再生可能エネルギーの普及活動と持続可能な社会の実現に貢献

21/3期 配当

中間配当 未定 → **14** 円/株

期末配当 未定 → **未定**
(予想)

21/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で決定の予定
中長期的なキャッシュアロケーション方針は不変
(フリーキャッシュフローの50%を株主還元)

(ご参考) 20/3期 配当

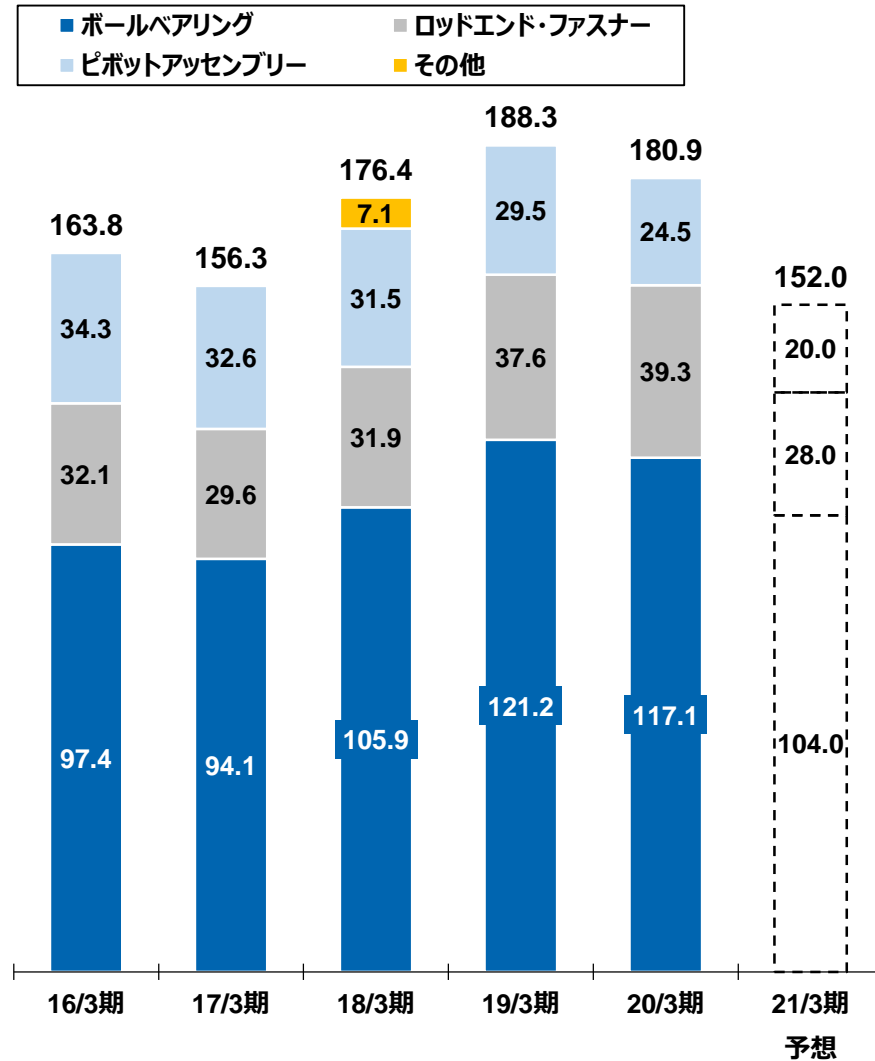
年間配当28円 (中間配当14円 期末配当14円)



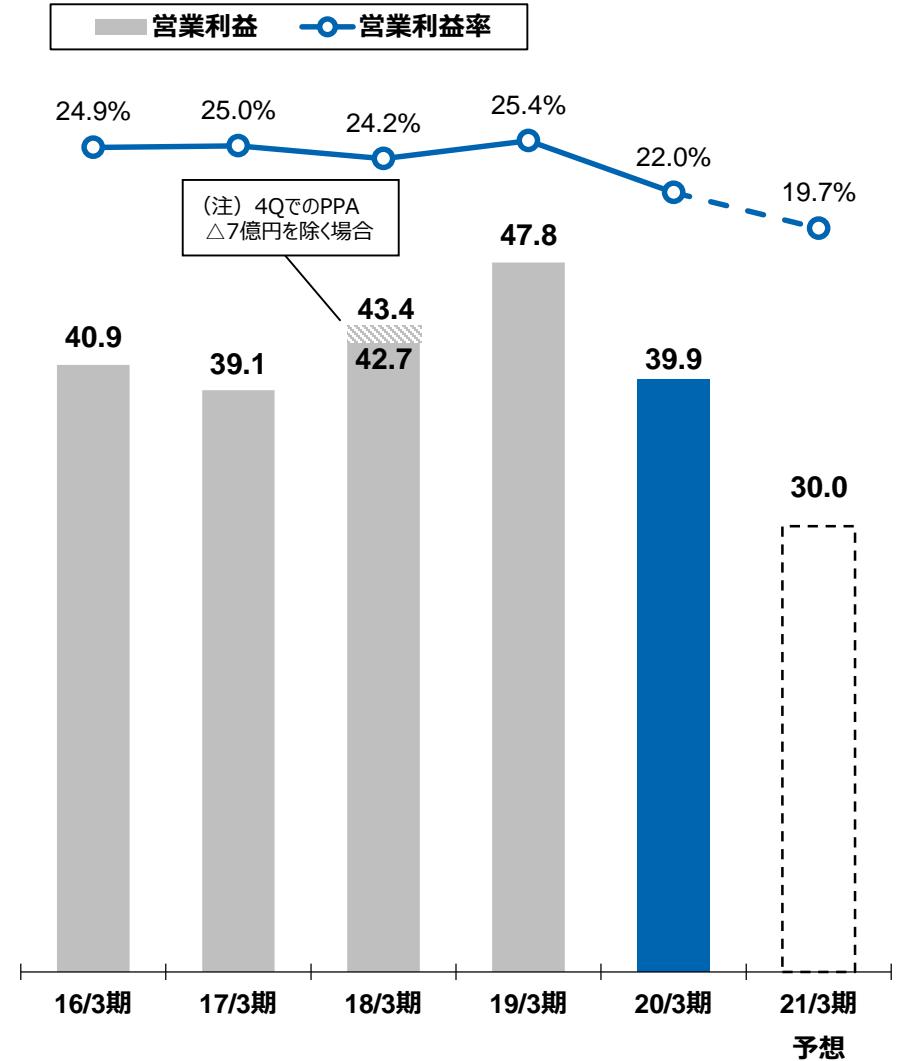
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

參考資料

売上高 (10億円)



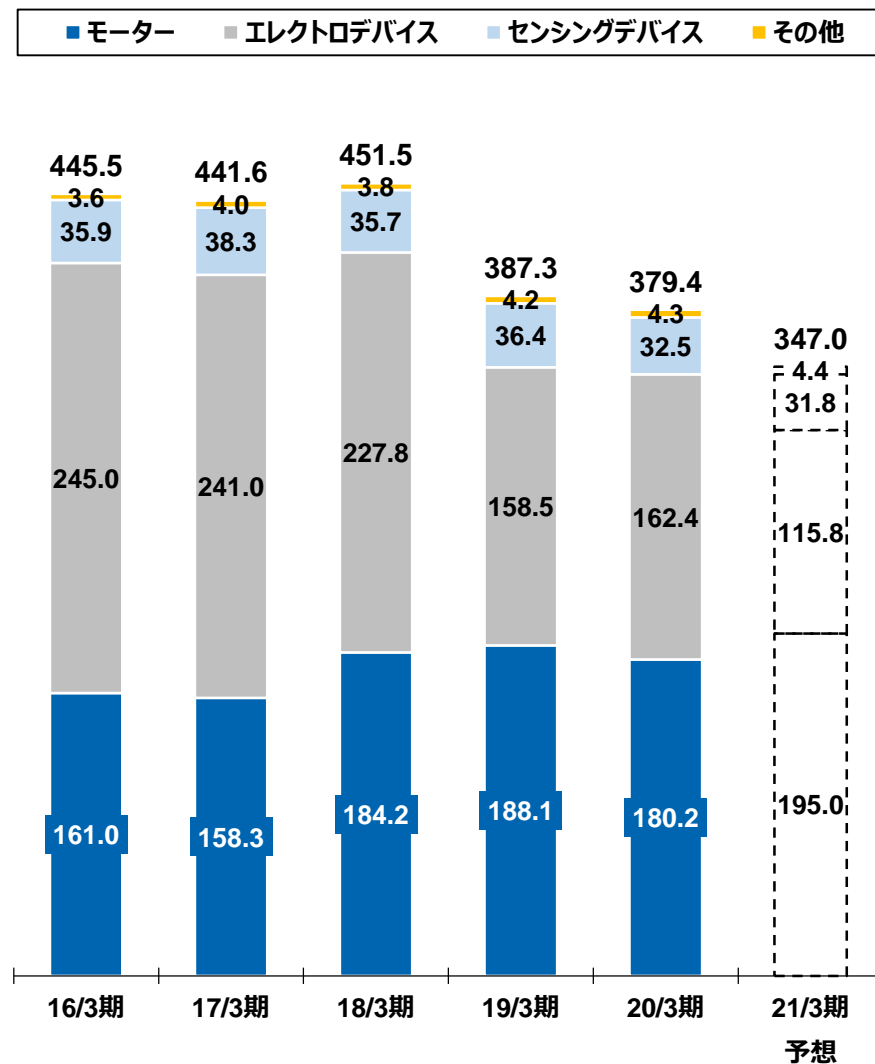
営業利益 (10億円)



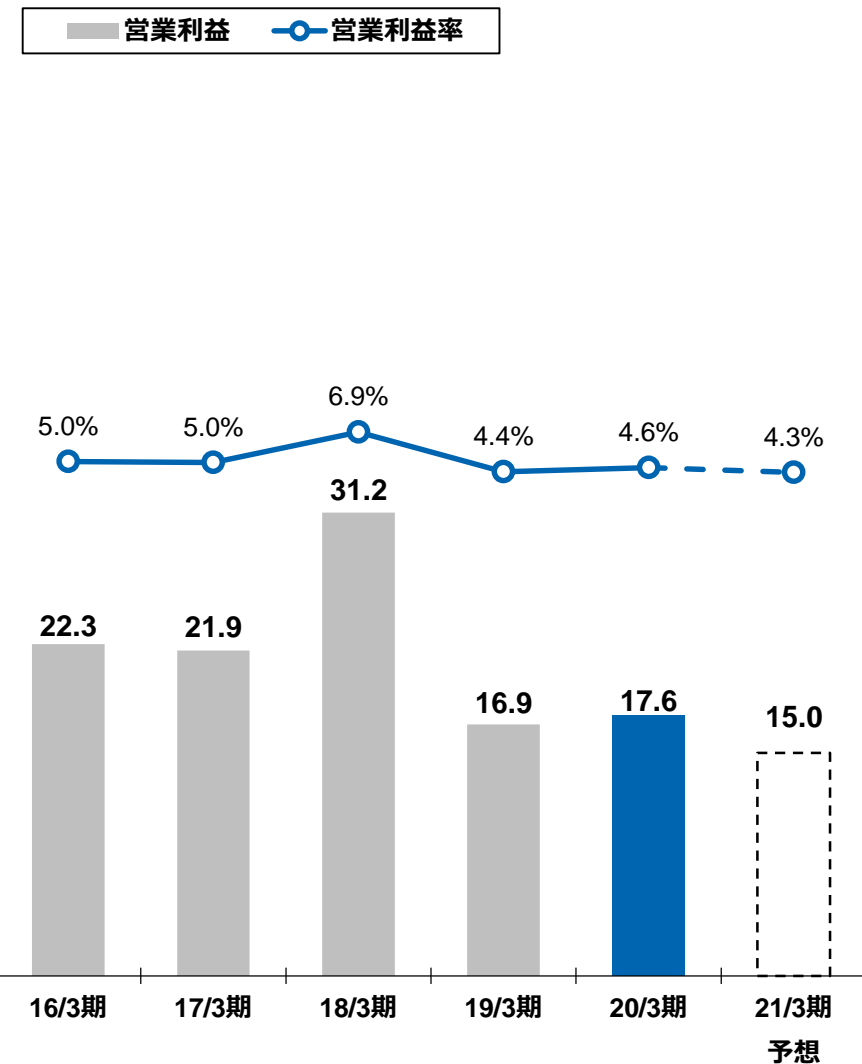
← [JGAAP] → ← [IFRS] →

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

売上高 (10億円)



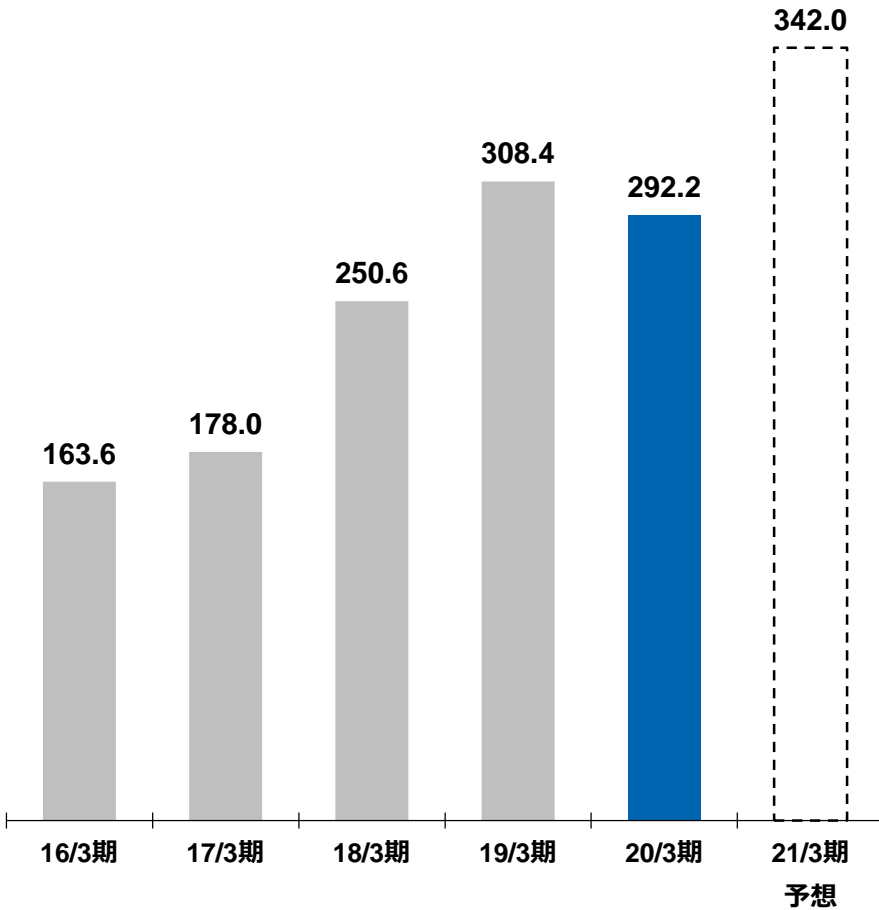
営業利益 (10億円)



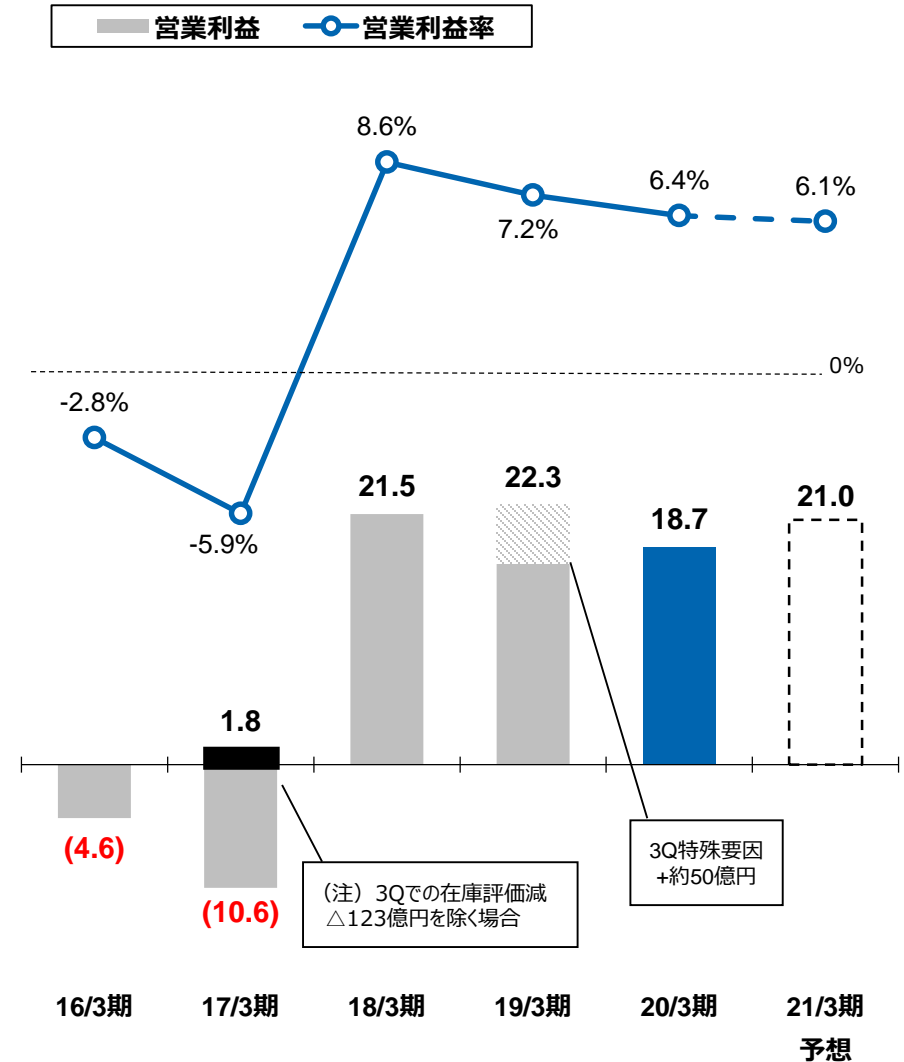
← [JGAAP] → ← [IFRS] →

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

売上高 (10億円)



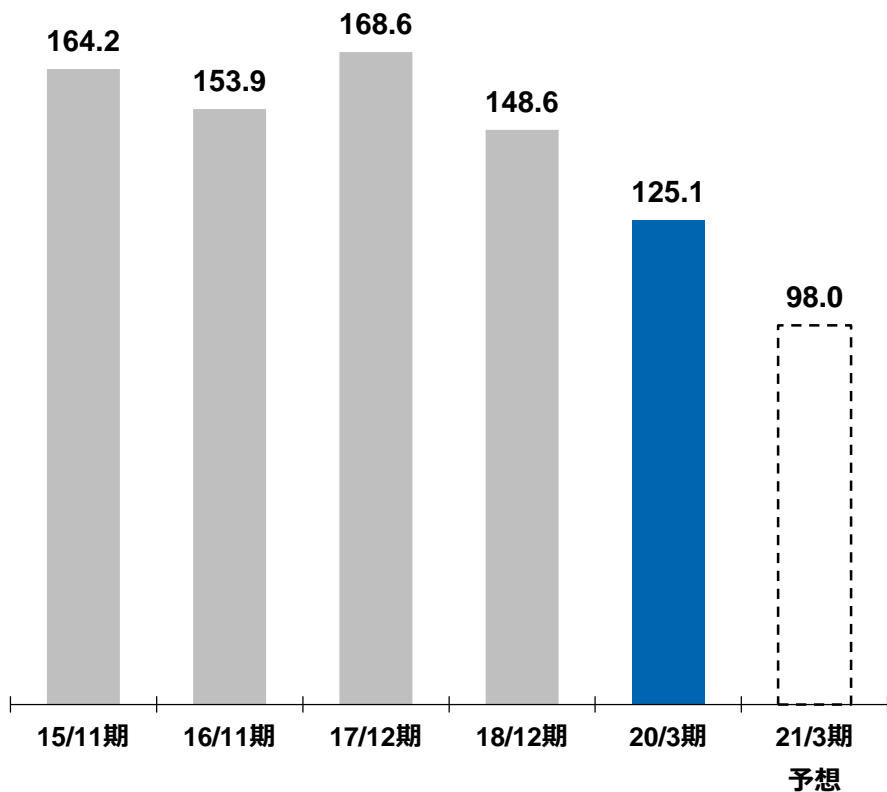
営業利益 (10億円)



ユーシン事業セグメント

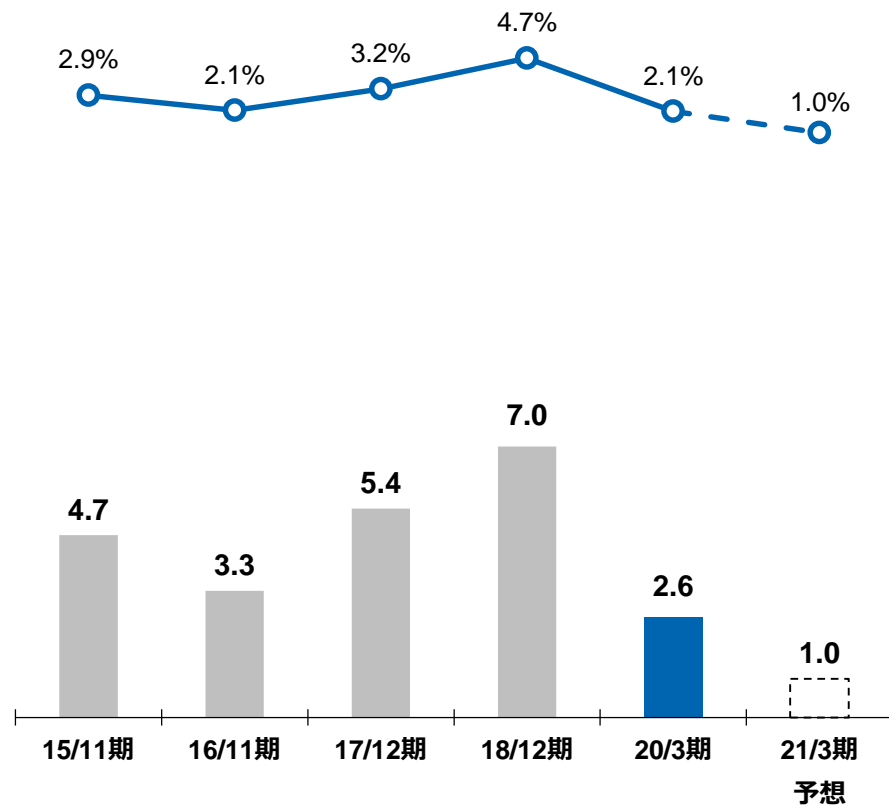
決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

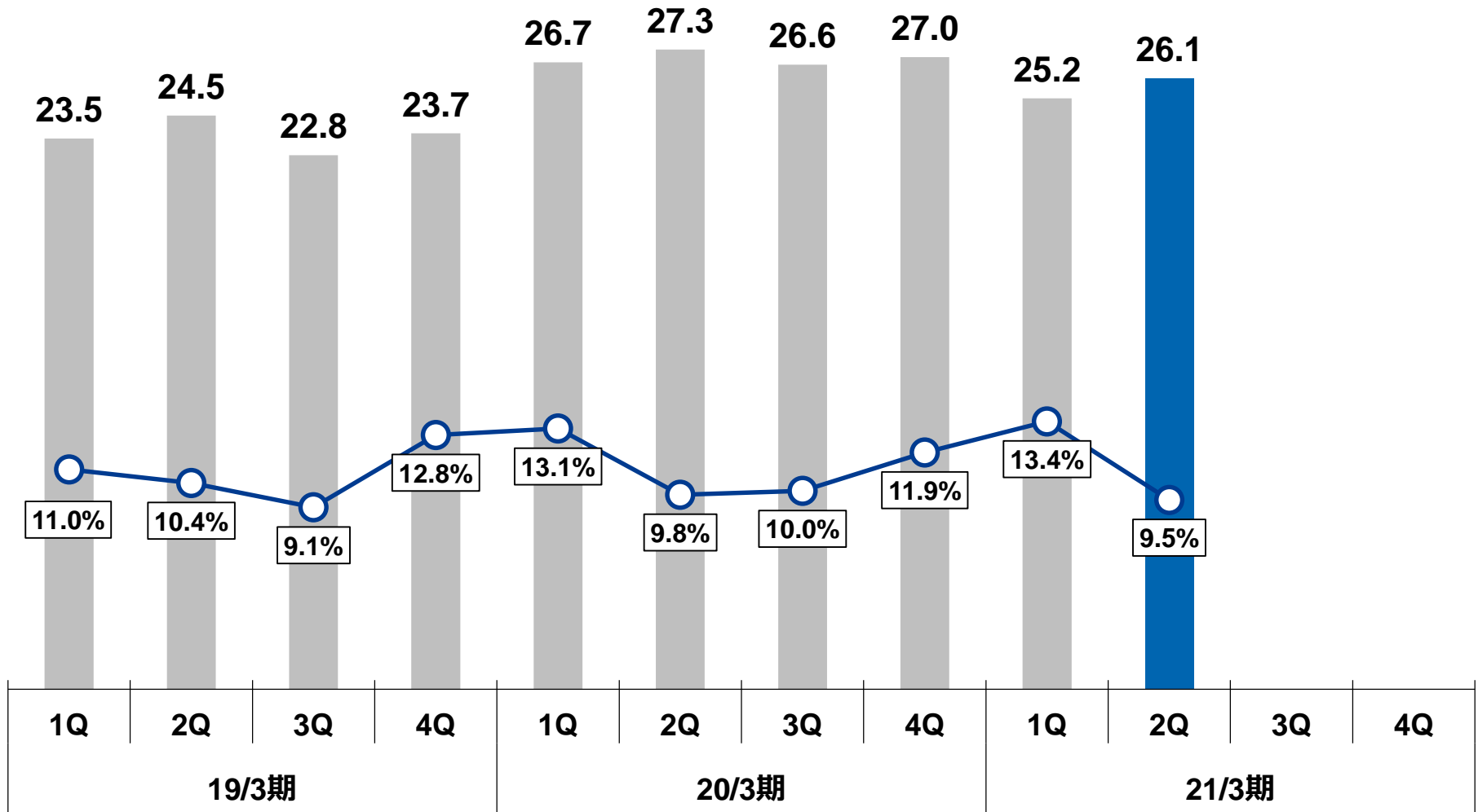
■ 営業利益 ● 営業利益率



販管費

(10億円)

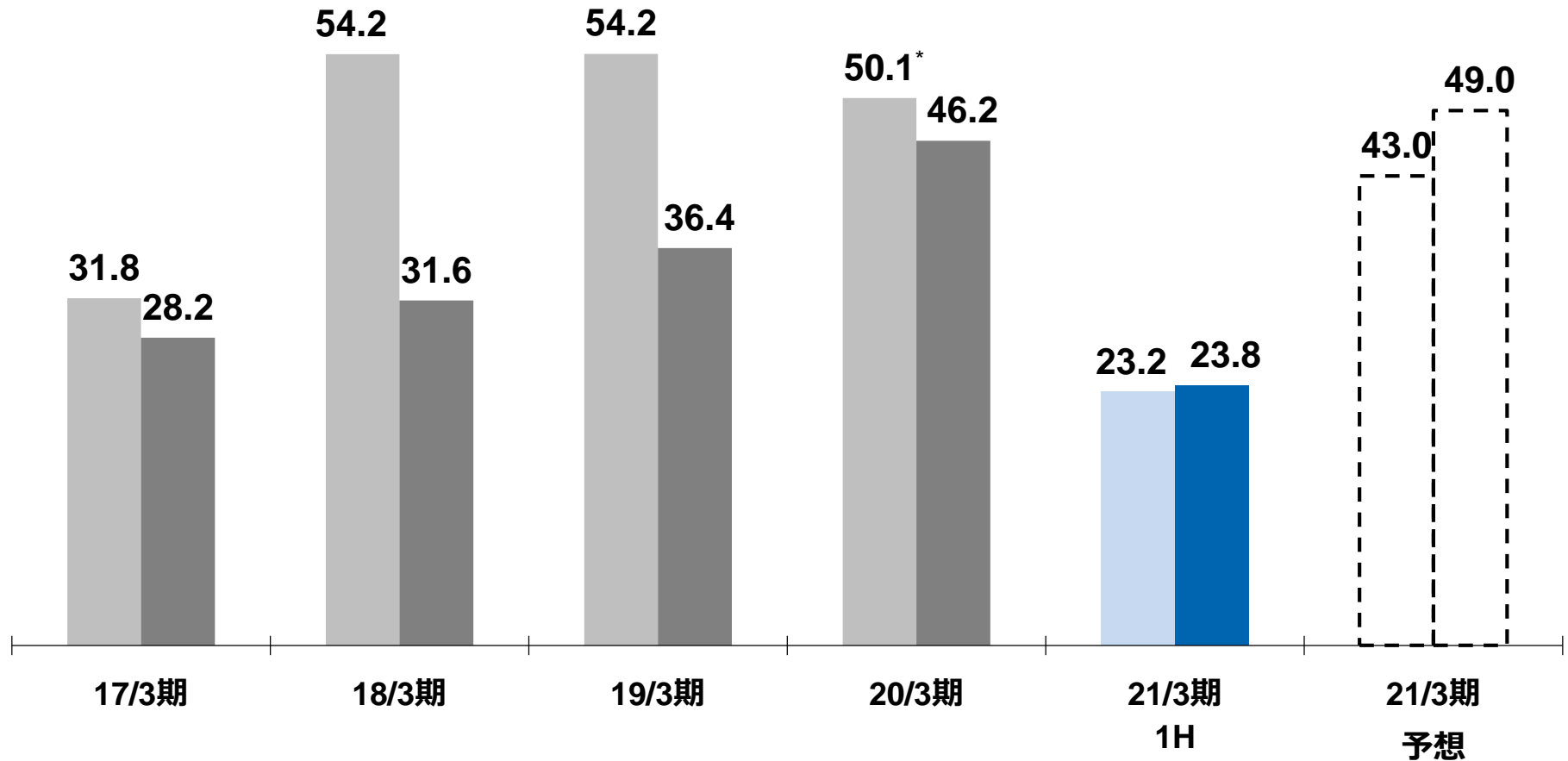
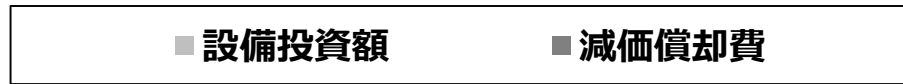
■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP] → [IFRS] →

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益 + 特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形 + 売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形 - 買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出

